

---

妄想 girl 可憐とkaren ミ

優音

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

妄想girl 可憐とkaren Ⅲ

### 【Nコード】

N6655K

### 【作者名】

優音

### 【あらすじ】

このお話の主人公は、髪が長くて、メガネをかけてちょっと地味だから、クラスでは、ちょっと怖がられている可憐かれんです。

でも怖がられている理由は、それだけじゃないのです。

可憐は、妄想が大好き！男の子に話かけられただけで（この人がもし私のことを好きだったら…）なんて考えてそれを小説にしたのをノートに書いています。そのノートの名前は、「かれんのーと」休み時間、時には、授業中にも書くからだれもが中身をみたくなるけど覗こうとしたものにキツッと睨むからもう恐ろしくてだれも見よ

うとしなくて、かれんのーとの中身を呪っている人の名前を書いて  
いるだとか、殺した人の名前だとかという噂が流れていますが、そ  
んなの気にせずかれんのーとに書きます。

そして可憐には、もう1つの名前がありました

k a r e n ミです。k a r e n ミは、今話題のケータイ恋愛小  
説家ですが、自分のことを一切明かさなない謎の人物です。

このクラスでもk a r e n ミの話をしています。今話しているの  
は、k a r e n ミの正体です。すぐそこにいるとは、知らずに…

そんな大切に大事な秘密をちよつとしたことでクラスのちよつと意  
地悪なクラスのいつも中心にいる男子にも女子にもモテモテの拓海<sup>たくみ</sup>  
にしられてしまっただけ!?

## オープニング（前書き）

この小説は、この春中学1年生の女の子が書いています。  
言葉・漢字等変なところがありましたら、ご注意ください。と幸いです。

## オープニング

チツ チツ チツ

時計が、11時を指している

「もうそろそろ寝るかな……」

彼女は、持っていたケータイを閉じて充電機に付けてメガネを取り、机の上に置いてベットに入った。

「おやすみなさい……」

そういつて可憐（かれん）は、一日を終えた

「おはよう」 ビクッ 一瞬驚いて可憐の後ろの席の桜は、<sup>さくら</sup>「可憐さんか…おはよう……」

そういうと、すぐ友達の所へ行ってしまった

普通の人ならちよっぴり落ち込んだりするかもしれないが、可憐は、とっくになれたことなので特に動じない

なぜかという可憐は、髪が長くてメガネをかけてちよつと地味だからクラスでは、ちよつと怖がられているからで、本人は、小さい頃からのことなので、特に気にしていないそうだ

でも、怖がられているのは、それだけの理由だけではない

それは、いつ〜もノートになにかを書いているからだ 本人は、かれんのノートだから「かれんのー」と呼んでいるそうだが内容は誰も知らない。

なぜかというと、見ようとするとキツ睨むからだ。だから内容は、だれもしらない

みんなは、「呪っている人の名前だ」「儀式だ」などなどいっぱい噂が流れているが、真実は、小説を書いているのである。可憐は妄想が大好きで男の子に話しかけられただけで妄想してそれを小説

にしているのだ

桜のグループでは、今大人気のケータイ小説家の karen ミが流行っているようでその話をしている。

今は、kare ミは、どんな人なのか想像しているようだ  
karen ミは、年齢・職業は、もちろん 性別までシークレットな謎につつまれた人なのです。

karen ミは、主に恋愛小説を書いている人で、その小説は、主に青春的な感じなので「学生説」が一番信じられている。

「やっぱり学生じゃない？」 「以外に男の人だったりして」 「それは、ないっしょw」

こんな風に会話を楽しんでいた。 その本人が近くにいるとは、知らずに…

そう可憐が karen ミなのだ かれんのーとに書いた小説をサイトに乗せたら以外にヒットしてしまってこんなことになったのである

見られてしまった… (前書き)

次の日の朝…

見られてしまった…

いつも可憐は、一番早く学校に来てかれんのーとを書いている

今日もいつものようにかれんのーとを書いていた時事件は、起きた

ガラッ

だれかが来た、いつもこんな時間に誰も来ないので思わず後ろを見たら

「ふうん、こんなの書いていたんだ」

「!?!」

それは、一瞬の出来事だった。教室に拓海が入ってきて可憐がひじでかれんのーとを落としてしまつて気がついたら、拓海がかれんのーとをとっていた

「ちよつと返してよ!」

「いいのか そんな口聞いて」

「えっ?」

「聞かせてもらおうか 『k a r e n ミー位やった!これからもがんばろう』の意味を」

「…いや!なんで教えなきゃいけないの!?!」

「いいのか?クラスどころか学校全体にこのことを広めても」

拓海が意地悪そうに笑つた

「…しょうがない 話すわよ」

可憐は、かれんのーとの内容のこと 書いたことをケータイとのせ

たからにんじんとついでにまいたにんじ

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6655k/>

---

妄想girl 可憐とkaren ミ

2010年10月11日22時38分発行